

【論文】

古墳出土の金属製針について

大谷 宏治

要旨 古墳出土の針を集成・検討すると、古墳時代の金属製針は長さから4種類に区分することができ、古墳時代を通じてb類（5～10cm）を中心として使用され、古墳時代前期末～中期前半に長さが短いもの（a類=5cm未満）が確認できること、やや太いものと細いものの組み合わせが確認できることから、古墳時代中期の段階で長さや太さによる機能分化が進んでいたことを想定した。また、針を副葬する被葬者の性別は必ずしも女性だけに限定されるものではないことを確認した。さらに、針の副葬状況から、針は農工具とともに副葬されることが多いことから農工具とともに生産用具として位置づけられていた可能性を想定した。また、被葬者が針を使用した職掌（服飾生産や皮革製品生産）との関連性があることを想定するとともに、針を使用した生産が地域的に限定されていた可能性を想定した。一方で、北部九州では頭部付近に副葬される事例が多いことから、針の副葬にあたって地域的な副葬の風習の違いが存在した可能性も想定した。

キーワード：古墳時代、針、針の分類と分布、針の副葬状況、針と性別・職掌との関係

1 はじめに

筆者は静岡県富士市須津古墳群の報告を行う機会を得て、須津J6号墳から鉄針が出土していることを知った（文献15、註1）。当古墳の報告にあたり、針が副葬された古墳の性格を調べるために全国的な集成を行ったが、時間的な制約により半数以上の事例について調査をできないまま、見通しを述べるにとどまった（大谷2010b）。また、報告後楠元哲夫氏が針の集成を行っていること（楠元編1986）を教示されるとともに、間壁葭子氏が金蔵山古墳出土針について検討している（間壁2000）ことを知った（註2）。

ここでは前稿（2010b）に楠元氏らの集成分を補い、更に遺漏分を追加し再度集成を示すとともに、それを基礎に検討を加え、古墳時代の針の機能と針副葬の意味について考えたい。

2 古墳時代の針の研究史

まず、東京大学考古学研究室による千葉県我孫子古墳群（文献20）の報告書作成にあたり針出土古墳の集成が実施された（文献20）。また、奈良県北原古墳（文献48）や北原西古墳（文献49）の調査を通じ針が出土したことについて注目してか、楠元哲夫氏らが『宇陀北原古墳』報告書（1986年段階）で集成した針状金属製品は53古墳であった（楠元編1986）。この報告では集成はなされているものの、針についての検討はなされていない。

い。

間壁葭子氏は岡山県金蔵山古墳（文献76）出土針の再調査にて詳細な観察を行い、2本鞘入りのものは4～5cmの短針、それ以上のものは1本入りの可能性が高いことから、当時針の長さによる使い分けがあった可能性を想定した（間壁2000）。さらに、間壁氏は月の輪古墳（文献77）の事例などの検討を通して「古墳への奉仕に際しては、女性に対する負担分と役割を意味する用具分類」の結果や、金蔵山古墳では農具とともに針が副葬されていることから、一般的な農耕を主とする生業において衣服類も生産されていたことにより、農具と一緒に副葬された可能性を想定した（間壁2000）。

鈴木一有氏は、福岡県鋤崎古墳の報告書（文献91）で、清家章氏（清家1996）の研究を参考に、鉄鏃が副葬されていないことから針が副葬された被葬者は女性であることを想定した（鈴木2002）。

筆者は富士市須津J6号墳の報告にあたり、集成を行い、針の分類を行ったうえで、針出土古墳の分布の特徴、針副葬からみた被葬者像、針副葬の意味について簡単に検討を加えた（大谷2010b）。

したがって、上記の研究史を踏まえると、針を研究するに当たってはまず全国的な集成が必要で、それに基づいた分類、編年の位置づけを行ったうえで、針が副葬された被葬者の性別、副葬位置や共伴遺物を検討し、針副葬の意義を解明していく必要を感じた。

表1 針出土古墳地名表

No	古墳名	所在地	墳形	規模	埋葬	主な副葬遺物	数	針穴	出土	人骨	甲	鐵	時期	文献
1	お花山1－10	山形県山形市	円	－	木直	剣・刀子・櫛	1	未	？	女?	×	×	中期	1
2	森北1	福島県会津坂下町	後方	41	木直	銅鏡・玉類・鉄槍・鉄針・砥石	1	×	②?	女?	×	×	前期	2
3	廟内横穴墓群	福島県白河市	－	横穴	直刀・鉄鏃・轡・釧・針・紡錘車	未	未	－	－	×	●	後期	48	
4	原1	茨城県稻敷市	後円	29.5	木直	玉類・鉄劍・鉄槍・鎌・斧・鑿・針	未	未	②a	女?	×	×	前期	3
5	三昧塚	茨城県行方市	後円	85	箱石	冠・鏡・垂飾付耳飾・挂甲・大刀	1	未	②(3)(4)	男?	●	●	中期	4
6	上出島2	茨城県坂東市	後円	56	粘土	玉類・劍・鐵・斧・リガソナ・針	1	×	×	女?	×	●	中期	5
7	中島篠塚1	栃木県宇都宮市	円	17.9	不明	(鉄針・板状鉄製品・土師器)	17+	×	－	－	？	？	中期	6
8	城山1	千葉県香取市	後円	68	横石	鏡・装飾付大刀・胄・挂甲・針・馬具	30	○	？	－	●	●	後期	20
9	山王山	千葉県市原市	後円	69	粘土	鏡・冠・堅櫛・鉄針・單龍環頭大刀	3	×	②b?	男?	×	●	後期	8
10	水神山	千葉県我孫子市	後円	69	粘土	玉類・刀子・針・土師器	2	未	②b	女?	×	×	中期	20
11	殿山1	東京都世田谷区	円	－	横石	大刀・刀子・鉄環・鉄鏃・針状鉄器・玉類	1	未	－	－	×	●	後期	20
12	三ノ宮・下戸谷7	神奈川県伊勢原市	円	20	横石	玉類・鉄鏃・刀子・針・須恵器	1	×	①	5	×	●	後期	9
13	さんせ塚	神奈川県伊勢原市	円	－	横石	刀子・織・農工具・玉類・針	1	未	？	－	×	●	後期	20
14	如来堂	長野県伊那市	円	－	木直	挂甲・大刀・鐵・鎌・轡・帶金具	1?	未	？	男?	●	●	中期	20
15	西山9	石川県能美市	古墳	－	横石	鏡・玉類・刀子・鉄鏃・馬具・針	13	×	不	－	×	●	後期	10
16	秋常山2	石川県能美市	方	30	粘土	大刀・農工具・砥石・刀子・針・堅櫛	3	×	②/(3)	女?	×	×	中期	11
17	中島ヤマンタン25	石川県七尾市	円	11	横石	大刀・鉄・石突・鉄鏃・針	2	×	不	－	×	●	後期	12
18	天神山7	福井県福井市	円	53	木直	鏡・短甲・挂甲・胄・大刀・劍・コロク・鐵	未	未	－	男?	●	●	中期	13
19	田頭山1	静岡県三島市	円	10.8	横石	短刀・鉄鏃・刀子・耳環・玉類・針	1	○	④	×	×	●	後期	14
20	須津J6	静岡県富士市	円	10	横石	玉類・馬具・大刀・鉄鏃・刀子・針	4+	○	①	4	×	●	後期	15
21	中原4	静岡県富士市	円	11	横石	象嵌装大刀・馬具・農工具・鉄鏃・針	1	○	？	×	×	●	後期	16
22	岩田山21	静岡県藤枝市	円	－	木直	鏡・玉類・櫛・鉄劍・刀子・針	1	未	？	女?	×	×	中期	17
23	高代山4	静岡県掛川市	後円	29	木直?	大刀・劍・鉄・針・ヤリガソナ・須恵器	3±	×	不	×	×	●	後期	18
24	春林院	静岡県掛川市	円	30	粘土	鉄・刀・ヤリガソナ・鉄針	5	×	①?	女?	×	×	前期	19
25	東之宮	愛知県犬山市	後方	72	堅石	鏡・石製腕飾類・鉄鏃・大刀・劍・農工具	3	×	②c	男?	×	●	前期	21
26	船来山O274	岐阜県本巣市	円?	－	横石	馬具・鉄鏃・刀子・針	6+	×	不	3	×	●	後期	22
27	星飯大塚－堅石	岐阜県大垣市	後円	150	堅石	石劍・石製模造品・玉類・鉄劍・針	10+	×	不	不	×	×	前期	23
28	龍門寺1	岐阜県岐阜市	円	17	堅石	鏡・石劍・櫛・農工具・鉄針・砥石・短甲	4+	未	①	男?	●	●	前期	24
29	石山－東	三重県伊賀市	後円	120	粘土	鏡・堅櫛・石製模造品・鉄鏃・銅鏃・短甲	11+	未	④	男?	●	●	前期	25
30	石山－西	三重県伊賀市	後円	120	粘土	石製腕飾類・素環頭大刀・鏡・農耕具	14+	未	②a	女?	×	×	前期	25
31	雪野山	滋賀県東近江市	後円	120	堅石	鏡・石製腕飾類・銅鏃・鉄鏃・玉杖・胃	1	未	②a	男?	●	●	前期	26
32	湧出山C	滋賀県長浜市	長方	16	木直	鐵劍・鉄鏃・鉄斧・針状鉄器	不	未	②a	男?	×	●	中期	27
33	芝ヶ原11	京都府城陽市	後円	56.4	粘土	鏡・斧・刀子・針・農工具・劍・鐵・短甲	4+	×	不	男?	●	●	中期	28
34	西山1	京都府城陽市	後方	80	粘土	針状鉄器13	13	×	①	女?	×	×	前期	29
35	寺戸大塚－前方部	京都府向日市	後円	95	堅石	鏡・紡錘車・鉄鏃・銅鏃・農工具	1+	×	不	男?	×	●	前期	30
36	井ノ内稻荷塚－1	京都府向日市	後円	46	横石	玉類・鉄刀・鉄鏃・針状工具・馬具	2	×	不	－	×	●	後期	31
37	里ヶ谷3	京都府京丹後市	－	－	横穴	刀子・針状鉄製品・金環・須恵器	1	×	不	不	×	×	後期	32
38	園部垣内	京都府南丹市	後円	82	木直	鏡・農工具・鉄針・短刀・鉄鏃・銅鏃・短甲	4+	×	②c/(3)	男?	●	●	前期	33
39	平山	京都府南丹市	円	17	木直	四獸鏡・勾玉・刀子鉄製品・鉄製針・鉄斧・玉類	1	×	②a/(3)	男?	×	●	前期	34
40	宇津久志1	京都府長岡京市	方	8	木直	大刀・針	未	未	?	女?	×	×	中期	35
41	瓦谷1－2	京都府木津川市	後円	51	粘土	鏡・堅櫛・鐵劍・鉄刀・劍・鉄鏃・銅鏃・鞍	未	未	③	男?	●	●	中期	36
42	入谷西D1	京都府与謝野町	方?	不	堅石?	土師器・須恵器・鉄製針	4+	未	不	女?	×	×	後期	103
43	上人ヶ平16	京都府木津川市	方	－	礫敷	針状鉄器	未	未	未	－	未	未	中期	37
44	ベニショ塚－2	奈良県奈良市	後円	70	粘土	鐵槍・鉄鏃・・漆盾・針状鉄器・農工具・馬具	未	未	不	男?	●	●	中期	38
45	桜井茶臼山	奈良県桜井市	後円	207	堅石	鏡・石製腕飾類・鉄刀・銅鏃・鉄鏃・玉杖	未	未	不	男?	×	●	前期	39
46	双築	奈良県桜井市	円?	20	粘土	櫛・玉類・鐵劍・針・斧・ヤリガソナ・鉄訓?	1	未	②a	女?	×	×	前期	40
47	見田大沢1－中央南	奈良県宇陀市	後円	27.5	木直	砥石・曲鎌・玉類・金環・鉄鏃・針状鉄器	1	×	②c	男?	×	●	後期	41
48	大和二塚－造出	奈良県葛城市	後円	60	横石	玉類・鉄刀・鉄鏃・農工具・金状鉄器	10	×	不	－	×	●	後期	42
49	寺口千塚16	奈良県葛城市	楕円	18	横石	大刀・刀子・鎌・鉄斧・鉄鏃・鉄針・耳環	1	有	④?	－	×	●	後期	43
50	寺口忍海E12	奈良県葛城市	円	8	横石	玉類・針・刀子・鉄滓・鑿?	1	有	－	－	×	×	後期	44
51	寺口忍海H34	奈良県葛城市	円	15	横石	鉄鏃・捩環頭大刀・鉄鋒・馬具・針状金具・鉄針	1	不明	－	－	×	●	後期	44
52	寺口忍海H39	奈良県葛城市	－	－	横石	玉類・針状鉄製品・鎌・須恵器	5	不明	①	－	×	●	後期	44
53	藤ノ木	奈良県斑鳩町	円	48	横石	盛矢具・挂甲・金銅製馬具・冠・鏡など	17±	有	不	男2	●	●	後期	45
54	大谷今池2	奈良県大和高田市	円	24	木直	鐵鏃・捩環頭大刀・弓飾・刀子・鑿・針・轡・玉類	1	○	②c?	3人	×	●	後期	46
55	火野谷山－2	奈良県葛城市	円	14	木直	鏡・玉類・櫛・刀子・手鍍・針状鉄器・劍・石製品	3	×	②a?	女?	×	×	中期	47
56	北原－北棺	奈良県宇陀市	方	16	木直	劍・鎌・堅櫛・琴柱形石製品・蔽手刀子・農工具	6	×	②a・b	男?	×	●	中期	48
57	北原西1－棺外	奈良県宇陀市	後方	31.5	木直	鏡・玉類・鉄劍・鉄鏃・農工具・針	10	不明	②a・c	男?	×	●	中期	49
58	後出6	奈良県宇陀市	円	10	木直	鐵劍・鉄鏃・刀子・鉄鋒・ヤリガソナ・鑿・砥石	5	不明	①	男?	×	●	中期	50
59	前山1－東	奈良県宇陀市	円	16	木直	刀・劍・刀子・鑿	1	×	①	女?	×	×	中期	51
60	ヲトンド4－1	奈良県宇陀市	楕円	14	木直	鏡・鉄鏃・刀子・針・須恵器	1	不明	①	男?	×	●	後期	52
61	今田1	奈良県高取町	円	22	粘土	短甲・胃・劍・槍・鉄・鎌・盾・農工具・櫛	1	未	未	男?	●	●	中期	48
62	タニグチ1	奈良県高取町	円	20	粘土	鏡・農工具・針・素環頭大刀・槍・鉄鏃・短甲	2	不明	①/(2)	男?	●	●	中期	53
63	タニグチ3	奈良県高取町	円	12	木直	鉄斧・鉄針・鉄鎌・鉄鏃・鉄劍・鉄鏃	數本	不明	②a/(1)	男?	×	●	中期	53
64	弁天山(墓谷)D2-b	大阪府高槻市	後方	40	木直	滑石製小玉・針状鉄器1	1	×	③	女?	×	×	中期	54
65	弁天山(墓谷)D2-c	大阪府高槻市	後方	40	木直	刀子・針状鉄製品・鉄鏃	1	×	②b	男?	×	●	中期	54
66	紅葺山C3	大阪府高槻市	円墳	－	木直	大刀・劍・刀子・櫛・斧・鎌・鑿・砥石・櫛	2	×	未	男?	×	●	中期	55
67	風吹山	大阪府岸和田市	帆立	71	粘土	鏡・玉類・鐵劍・鉄刀・刀子・針・堅櫛	5±	不	②b	女?	×	×	中期	56
68	心合寺山	大阪府八尾市	後円	130	粘土	甲胃・鏡・刀劍類・針・堅櫛・勾玉・管玉	未	未	未	×	●	●	中期	57
69	茶すり山-1	兵庫県朝来市	円	90	粘土	鏡・短甲・胃・素環頭大刀・刀劍・鉄鏃・農工具	1	×	③	男?	●	●	中期	58
70	茶すり山-2	兵庫県朝来市	円	90	粘土	鏡・玉類・堅櫛・鉄刀・鉄鏃・農工具	9	○	①?	×	×	●	中期	58
71	カチヤ	兵庫県豊岡市	円	22	木直?	珠文鏡・玉類・刀子・鉄劍・針・鉄鏃・鉄劍・鉄鏃	3	○	①	女	×	×	中期	59
72	中ノ郷・深谷1－2	兵庫県豊岡市	方	21	木直?	内行花文鏡・石枕・針状鉄製品	1	不	①	女?	×	×	中期	60
73	梅田1	兵庫県朝来市	円	28	木直	銅鏡・琴柱形石製品・堅櫛・針・鉄鏃・農工具	10+	○	③	男?	×	●	中期	61
74	梅田3	兵庫県朝来市	円	10	木直	大刀・鉄鏃・刀子・針・須恵器	1+	不	①	男?	×	●	中期	61
75	田和	兵庫県養父市	古墳	－	箱石	堅櫛・琴柱形石製品・針状鉄製品・刀子	未	未	?	女	×	×	中期	62
76	柿坪中山4－1	兵庫県朝来市	円	20	堅石	劍・ヤリガソナ・斧・鎌・針	1	不	?	男	×	●	中期	63
77	鳥坂3	兵庫県たつの市	円	12	粘土	鏡・大刀・ヤリガソナ・玉類・櫛	1	不	①	女?	×	×	中期	64

No	古墳名	所在地	墳形	規模	埋葬	主な副葬遺物	数	針穴	出土	人骨	甲	鎌	時期	文献	
78	大寺山古墳群	兵庫県香美町	古墳	—	—	玉類・針状鉄製品・短剣・刀子・鋤鍬	未	未	不	—	×	×	中期	※	
79	岩内3	和歌山県御坊市	円	28	木直	鏡・斧・ヤリガンナ・鉄釧・銅釧・巴形銅器・櫛	5	×	②a	女?	×	×	中期	65	
80	崎山14	和歌山県印南町	円	14	横石	製塙土器・鉄釧・針・銀環・玉類	1	×	不	—	×	×	後期	66	
81	宮内2-3	鳥取県湯梨浜町	後円	23	箱石	玉類・針・鐵刀・鐵鍬・須恵器	1	◎	不	男?	×	●	後期	67	
82	狼谷	鳥取県北栄町	円	—	箱石	大刀・櫛・玉類・針・石枕	1	未	不	男	×	×	—	68	
83	古郡家1-3	鳥取県鳥取市	後円	90	粘土	鏡・櫛・刀子・農工具・針・劍・鉄鎌・短甲	1	未	②b?	男?	●	●	中期	69	
84	桂見2-1	鳥取県鳥取市	方	28	木直	鏡・刀子・針状鉄製品・鎌状鉄製品・鉄刀	未	未	?	女?	×	×	前期	48	
85	糸谷3-5	鳥取県鳥取市	古墳	—	石直		未	未	?	—	—	—	—	48	
86	浜坂横穴墓群	鳥取県鳥取市	—	—	横穴	直刀・刀子・鉄鎌・鉄釧・耳環・銅製輪・針	未	未	不	—	×	●	後期	※	
87	日下12	鳥取県米子市	円	13	箱石	鉄斧・鉄針・鉄鎌・刀子・刀・耳環・玉類	1	×	②a/(4)	男・女	×	●	後期	70	
88	上島	島根県出雲市	円	15	堅石	鏡・銀環・玉類・鈴釧・針状鉄片・馬具	4	×	不	男	×	●	後期	71	
89	小丸子山	島根県宍粟市	—	—	横穴	須恵器・鉄製針	不	不	不	—	×	×	後期	48	
90	松本1-1	島根県雲南市	後方	50	粘土	鏡・小玉・刀子・針・劍形鉄器	7+	×	①	女?	×	×	前期	72	
91	神原神社	島根県雲南市	方	29	堅石	鏡・農工具・針・素環頭大刀・大刀・鉄劍	2	×	②a	男?	×	●	前期	73	
92	四辻1	岡山県赤磐市	円	18	木直	劍・蕨手刀子2・玉類・堅櫛	1	×	②b	女?	×	×	中期	74	
93	七つグロ	岡山県岡山市	後方	45.1	堅石	鏡・玉類・鉄劍・鉄刀・鐵鎌・針状工具・農工具	2	×	不	男?	×	●	前期	75	
94	金蔵山-中	岡山県岡山市	後円	165	堅石	石製腕輪類・刀劍・筒形銅器・短甲・埴製盒	30+	◎	②c	男?	●	●	中期	76	
95	金蔵山-南	岡山県岡山市	後円	165	堅石	鏡・刀劍・農工具・針・鉄鎌・短甲・蕨手刀子	若干	×	②b?	男?	●	●	中期	76	
96	旗振台-北	岡山県岡山市	方	27	粘土	短甲・衝角付骨・鐵・劍・大刀・槍	1	未	①?	男?	●	●	中期	20	
97	月の輪南棺	岡山県美咲町	円	60	粘土	鏡・玉類・刀子・針状鉄器・直刀・劍・鉄鎌・石釧	22+	×	①	女	×	●	前期末	77	
98	我城山6	岡山県瀬戸内市	円	—	木直	大刀・劍・鐵・斧・鑿	1	未	未	男?	×	●	中期	20	
99	井尻野1/佐野山	岡山県総社市	方	25	箱石	鏡・櫛・針・劍・鉄鎌・刀子・甲冑	未	未	未	男?	●	●	中期	※	
100	堂山5	岡山県真庭市	円	—	木直	大刀・劍・刀子・ヤリガンナ・斧・鎌・玉類・鐵	2	未	未	男?	×	●	中期	20	
101	西山26	岡山県総社市	方	20	粘土	堅櫛・玉類・大刀・刀子・鉄斧・針	3+	×	③	女?	×	×	中期	78	
102	山の神	広島県福山市	円	14	横石	空玉・鉄斧・馬具・鉄針・須恵器・土師器片	10+	未	未	—	×	×	後期	48	
103	才谷3-A	広島県福山市	円	15.7	箱石	針・刀子	1	×	①	女?	×	×	中期	79	
104	才谷4-B	広島県福山市	円	15.6	石蓋	(棺外)針・刀子	1	×	②?	女?	×	×	中期	79	
105	山ノ神第1	広島県府中市	円	12	箱石	鏡・玉類・刀子・鉄製針・鼓形器台	1	×	不	男・女	×	×	中期	80	
106	地蔵堂山1	広島県広島市	方	17	木直	素環頭大刀・刀劍・鉢・鐵・農工具・有孔円板	1	×	①/(4)	男?	×	●	中期	81	
107	赤妻	山口県山口市	後円?	40+	石直	鏡・櫛・針・玉類	20?	未	不	女?	×	×	中期	82	
108	朝田I-2	山口県山口市	円周	7.5	箱石	吊金具・針・錐?	玉類・有孔円板	1	×	①	女	×	×	中期	83
109	朝田III-7	山口県山口市	円周	7.9	箱石	蕨手刀子?	玉類・針状鉄器・土器	1	×	①	女?	×	×	中期	84
110	朝田II-12	山口県山口市	円	6	箱石	鐵鎌・刀子・鉄針	2	×	①	男?	×	●	中期	85	
111	国森	山口県田布施町	方	40	木直	鏡・劍・槍・鉢・鐵・農工具・刀子・針	1	不	②b?	男?	×	●	前期	86	
112	稼塚横穴墓群	山口県長門市	—	—	横穴	鏡・腕輪・農工具・銅針・頭椎大刀	未	未	不	—	×	×	後期?	102	
113	形山石棺	山口県下関市	不明	—	箱石	劍・鉄釧	未	未	未	女?	×	×	後期?	48	
114	汐入町(海老田)	山口県下関市	不明	—	石蓋	劍・刀子・ヤリガンナ・小玉・鉄釧	未	未	未	女?	×	×	中期?	102	
115	雉之尾1	愛媛県今治市	後方	30.5	木直	鏡・鉄劍・鉄刀・銅鎌・鉄鎌・針	3	未	④	男?	×	●	~前期	87	
116	若草4	愛媛県今治市	古墳	—	横石	玉類・針・須恵器	1	×	不	—	×	×	後期	89	
117	葉佐池2	愛媛県松山市	後円	56	横石	馬具・鉄鎌・玉類・針?	垂飾品・須恵器	2	×	不	不	×	●	後期	88
118	老司3	福岡県福岡市	後円	75	横石	鏡・玉類・櫛・農工具・櫛・短甲	2	×	②a/(4)	—	●	●	前期	90	
119	鋤崎1	福岡県福岡市	後円	62	横石	鏡・蕨手刀子・針・刀子	6+	×	①/(3)	女?	×	×	中期	91	
120	鋤崎2	福岡県福岡市	後円	62	横石	鏡・蕨手刀子・針・刀子・銅釧・櫛	7	×	①/(4)	女?	×	×	中期	91	
121	神領2	福岡県宇美町	円	30	粘土	鏡・櫛・玉類・鉢・銅環・針・刀子	3	◎	③	女?	×	×	中期	92	
122	欠塚	福岡県筑紫後市	後円	45	横石	玉類・鉄鎌・挂甲・針状鉄器	未	未	未	男?	●	●	中期	※	
123	古川平原5	福岡県みやこ町	円	10.1	箱石	砥石・針・鉄鎌	1	×	②a	男?	×	●	中期	101	
124	奴山5	福岡県福津市	円	26	箱石	鏡・短甲・短劍・針・鉄劍・農工具	10+	×	③	男?	●	×	中期	93	
125	菖蒲浦1	福岡県太宰府市	古墳	—	粘土	鏡・櫛・鉄斧・刀子・鍔先・針・直刀	1	◎	③	女?	×	×	中期	94	
126	柿原1-2	福岡県甘木市	円	16	横石	馬具・鉄鎌・玉類・刀子・針	11	×	③	女?	—	●	後期	95	
127	西尾山1	福岡県糟屋町	円	22	横石	鑿?・斧・針	1	×	③	女?	×	×	中期	7	
128	萱葉1	福岡県志免町	円	20	木直	鏡・櫛・鉄針・鉄鎌・鉄鎌・鉄劍	5+	×	①/(3)	男?	●	●	中期	96	
129	七夕池	福岡県志免町	円	—	堅石	鏡・蕨手刀子・鉄刀・琴柱形石製品	2	×	③	女	×	×	中期	97	
130	惣社	福岡県みやこ町	円	28	箱石	鏡・蕨手刀子・針・劍・大刀	未	未	未	男?	●	●	中期	92	
131	新津大古内石棺	福岡県苅田町	—	—	箱石	(未確認)	未	未	未	未	未	未	中期	92	
132	野口2-1	福岡県那珂川町	円	—	土壤	玉類・櫛・針	未	未	未	女?	×	×	中期	92	
133	天神山古墳	福岡県うきは市	古墳	—	箱石	(未確認)	未	未	未	未	未	未	中期	92	
134	古寺D-10	福岡県甘木市	—	—	石蓋	鹿角装刀子・玉類・陶質土器	1	×	②b	女?	×	×	中期	98	
135	熊本山	佐賀県佐賀市	円	—	石直	鏡・玉類・鉄針・鉄劍・鉄刀・短甲	1	×	②c	男?	●	×	前期	99	
136	おごもりI-4	大分県玖珠町	方周	—	石直	玉類・劍・針	未	未	未	不	×	不	—	48	
137	市の瀬10	宮崎県富町	—	地下	劍・直刀・鉄鎌・吊金具・針	1	◎	②a/(4)	—	×	●	後期	100		

古墳名 古墳名・横穴墓名は省略している。古墳名の「- (バー)」の後ろは主体部番号を表す。「●●-2」=●●古墳第2主体部

墳形 後円=前方後円墳 後方=前方後方墳 方=方墳 円=円墳 円周=円形周溝墓 方周=方形周溝墓 横穴=横穴墓 帆立=帆立貝形前方後円墳

埋葬=埋葬施設 堅石=堅石式石室 横石=横穴式石室 木直=木棺直葬 粘土=粘土棺 石蓋=石蓋土葬墓 箱石=箱形石棺 石直=石棺直葬

出土状況 ①=単独 ②=農工具(刀子含む)と共伴 ③=櫛や玉類と共伴 ④=武器(大刀・鉄鎌など)と共伴 不=不明 未=未確認 / =or (か)

数=針出土数 + =以上 ± =前後 針孔 ◎=針孔あり ×=確認されていない 甲=甲冑 甲冑・鉄鎌 ●=出土 ×=出土なし

人骨 「男」・「女」・「子」=人骨が出土 「男?」「女?」=副葬遺物から想定

以下では、まず集成を示した上で、針の分類、編年
的位置や副葬品の副葬状況などを検討し、さらに性別
との関係を考え、針副葬の意味に迫りたい。

3 針の定義と分類

(1) 針の定義

針の認定 針の分析を行う前に拙稿において針と認定する場合の特徴を定義したい。

報告書では「針状金属(鉄)製品」と記述されてい

ることが多く、針なのかそれ以外のものなのかを特定することが難しい。ここでは、細い棒状の金属製品で、先端が尖り、頭に針孔が確認できるものを「針」とする。また、針孔がないものの針筒等に納められた状態である可能性が高い（針状鉄製品とされる）ものについては針として扱う。

(2) 針の分類（図1）

針は長さと断面形態により用途が異なることから、前稿同様、それに基づいて分類を行う（大谷2010b）。

長さ **a類** 5cm未満のもの **b類** 5cm以上10cm未満のもの **c類** 10cm以上20cm未満のもの **d類** 20cm以上のもの

なお、金属製針は先端あるいは頭部が欠損していることが多いため、破損している個体については長さをやや長く想定復原して変遷図（図1）に示した。

断面 円形・方形・三角形・杏仁形がある（図1）。茶すり山古墳例（以下、古墳とる。文献58）、藤ノ木例（文献45）のように円形が一般的であるが、田頭山1号例（文献14）・園部垣内例（文献33）などは方形とされ、大谷今池2号例（文献46）は杏仁形である。また、西山26号例（文献78）は図面では針の一部が断面三角形に表現されており、三角形針である可能性がある。杏仁形針は網用、三角形針は皮革用の可能性がある。

材質 古墳出土品には銅・鉄製がある。鉄製であることが一般的（99%以上）であるが、寺口忍海E12号例（文献44）や糠塚横穴墓群例（文献102）のような、「鑄子」とされることもある銅針2例がある。なお、正倉院南倉には銀針が納められており、古墳時代に遡って銀針が出土する可能性がある。

このほか、間壁葭子氏は中国前漢の劉勝墓から出土した金銀製針の存在から、金針も出土する可能性を想定している（間壁2000）。金銀製針については銅製も含めて儀仗用と想定するのが妥当であろう。

(3) 針の保有方法

針は細く、先端が尖っていることから、直接保持するのは非常に危険である。古墳出土事例をみると針の保管（副葬）方法については下記の通り区分できる。言い換えれば、次の方法で副葬されたことが分かれば、針孔は確認できなくとも針である可能性が極めて高いことになる。

針であるが有機質が付着していないものについても本来は下記の方法で保持・副葬された可能性が高い。

甲類 篠竹や筍竹などの筒状の植物を針筒とし、その中に1～数本納めるもの。石山西槻例・東槻例（文献25）、金藏山中央石室副室例、茶すり山例など最も一般的な古墳への副葬方法であり、一般的な所持方法であった可能性が高い。前期～後期まで確認できる。1～3本程度のものが多いが、中には5本以上納めているものもある。

一部の針筒は、さらに布で覆われていた可能性がある。また、筒には佩用のための紐が取り付けられていた可能性が高い。

乙類 針箱に入れているもの。柿原I-2号例では東で出土した針に板状の木材が付着していたため針箱に納められた状態で副葬されたと想定される（文献95）。現状では、本古墳のみで確認できる方法であるが、数十本単位で錆着した針束については小箱に納められていた可能性もある。

丙類 針を糸（紐）で束ねるもの。寺口忍海H39号例（文献44）・松本1号例（文献72）等がある。古墳時代前期から後期まで確認できる。糸で束ねた針束をほかの容器に入れていたかどうかは特定できない。針を糸で束ねるもの（宮内2号例（文献67）のように針孔に糸が残るものも含む）は、被葬者が黄泉の国ですぐに使用できることを祈念して副葬された可能性がある。

(4) 針の変遷（図1）

針には特徴が少ないとから、長さにより大まかな編年的位置を示したのが図1である。

古墳時代前期には、b類（5cm以上10cm未満）のものが大部分で、古墳時代中期以降もb類が中心となる。前期には断面円形の針と方形の針が共存していた可能性が高い。

前期末～中期初頭には、春林院例（文献19）のように断面直径が1mm以下の非常に細いものが確認できるため、a類が存在した可能性が高い。また、茶すり山古墳の出土の棒状鉄製品（図1-d類-茶すり山例）が大型の針であるとすればd類が存在していた可能性があるが、当該例のみであり、別の使用方法を想定したほうがよい。また、革製品に使用されたと想定できる断面三角形の針（西山26号例）が出現していた可能性がある。また、鋤崎例では、針筒に納められた針の太さに太細が確認できる。

したがって、少なくとも中期前半段階にa・b類、断面円形・方形（・三角形）のさまざまな針が存在し、中期末には三昧塚例（文献4）のようなc類が存在し

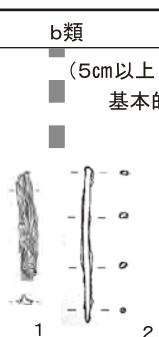
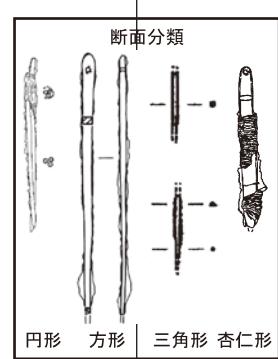
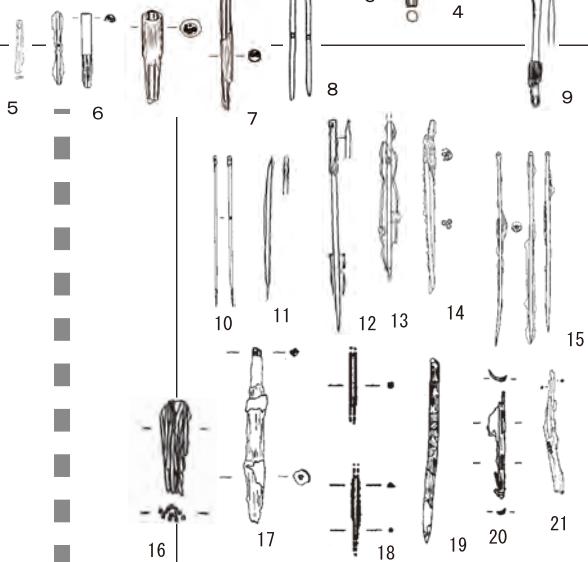
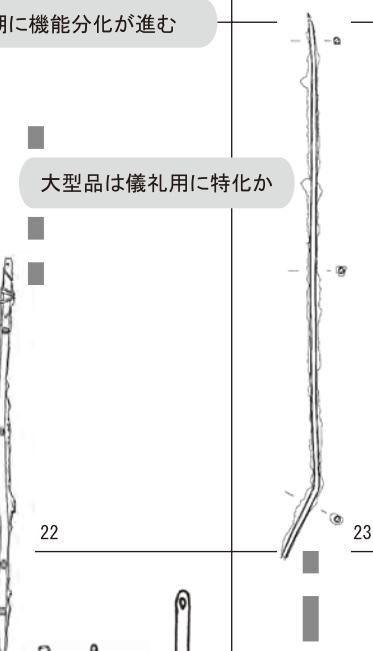
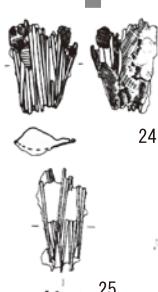
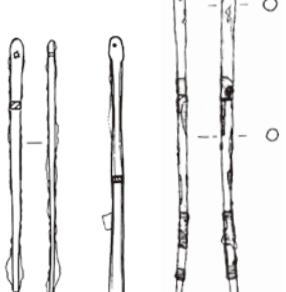
	a類 (5cm未満)	b類 (5cm以上 10 cm未満) 基本的な長さ	c類 (10 cm以上 20 cm未満)	d類 (20 cm以上)
前期	1 松本 1号墳 2 神原神社古墳 3 森北 1号墳 4 東之宮古墳 5 春林院古墳 6 鉢崎古墳第1主体 7 鉢崎古墳第2主体 8 龍門寺 1号墳 9 月ノ輪古墳 10 菖蒲浦 1号墳 11 神領 2号墳 12 金蔵山古墳 13 七夕池古墳 14 梅田 1号墳 15 力チヤ古墳 16 西山 9号墳 17 茶すり山古墳第2主体 18 西山 26号墳 19 北原古墳北棺 20 朝田Ⅲ地区 7号墳	 <p>(5cm以上 10 cm未満) 基本的な長さ</p>	21 水神山古墳 22 三昧塚古墳 23 茶すり山古墳第1主体 24 藤ノ木古墳 25 柿原 I・2号墳 26 若草 4号墳 27 須津 J 6号墳 28 大谷今池 2号墳 29 宮内 2号墳 30 寺口忍海 H39号墳 31 市ノ瀬 10号地下式横穴墓 32 田頭山 1号墳 33 寺口千塚 16号墳 34 寺口忍海 E12号墳 35 中原 4号墳	 <p>断面分類</p> <p>円形 方形 三角形 杏仁形</p> <p>(Scale = 1 : 3 22のみ 1 : 4)</p>
中期				 <p>この時期に機能分化が進む</p>
後期	 <p>24</p> <p>25</p>	 <p>28</p> <p>29</p>	 <p>31</p> <p>32</p> <p>33</p> <p>34</p> <p>35</p>	 <p>23</p> <p>大型品は儀礼用に特化か</p>
終末期	 <p>27</p>			

図1 針の変遷

正倉院

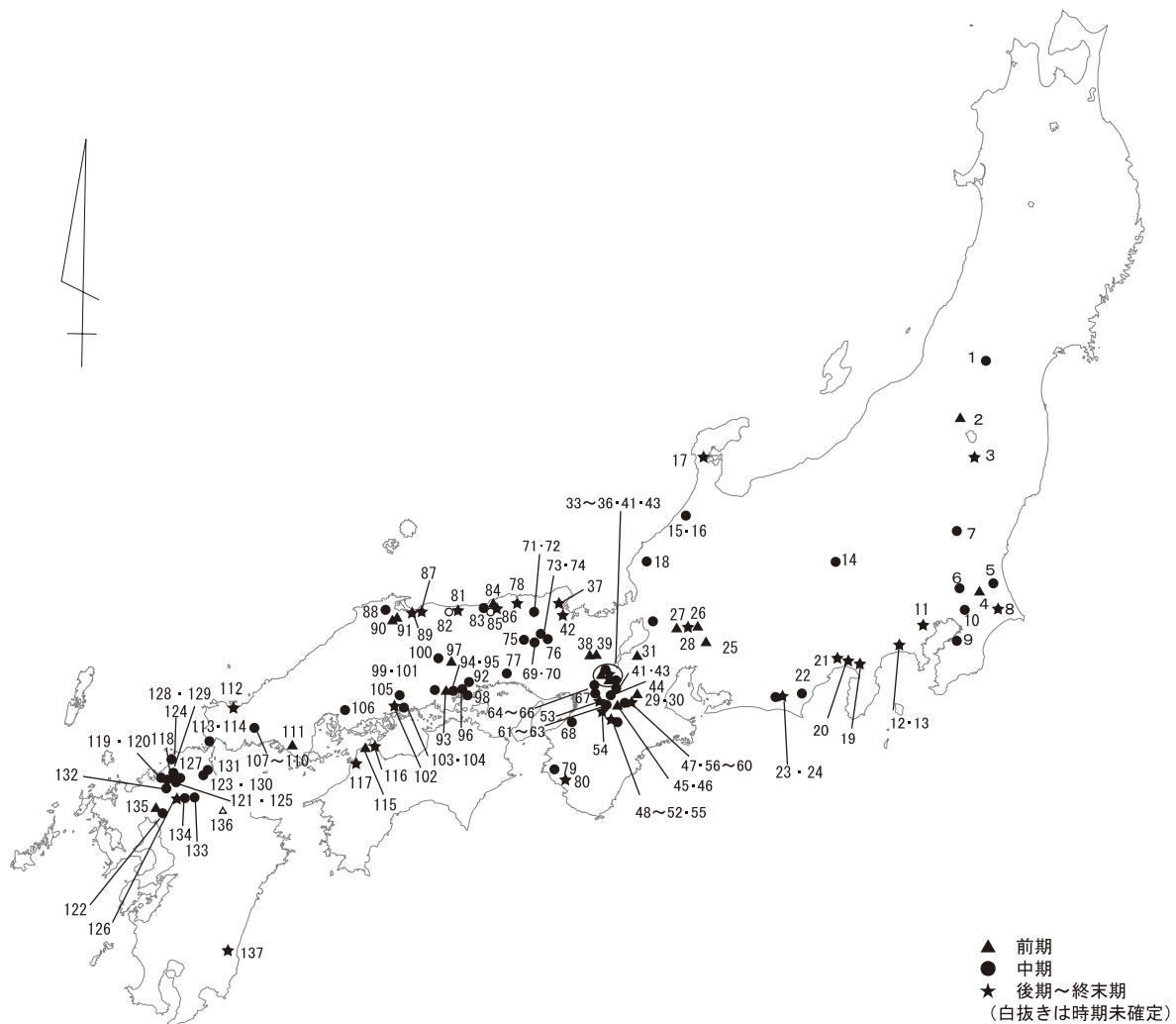


図2 針出土古墳分布図

ていることから、鋤崎例の太細の組み合わせも参考にすると使用目的による針の機能分化が存在していた可能性が高い。

後期になると、田頭山1号例や中原4号例（文献16）のようにc類が確認できる一方で、藤ノ木例、須津J6号例のようにa類も確認できることから、機能分化がより進んでいると想定できる。後期にはb類の割合が減少するが、前期から最も一般的なb類を主体として、a～c類が使用されていた可能性が高い。ただし、寺口忍海E12号例のc類が銅製であることから考えると、c類や正倉院宝物のd類の大型の針は実用ではなく、後の「乞巧奠（七夕）」に用いられたと想定されるよう儀礼・祭祀用に特化していた可能性がある。

4 針出土古墳の分布（図2）

ここでは針出土遺跡の集成（表1）をもとに、その分布について検討したい。現状で北は福島県会津坂下

町の森北1号墳（文献2）、山形県山形市お花山10号墳（文献1）から南は宮崎県市ノ瀬10号地下式横穴墓（文献100）まで、132古墳・横穴墓で出土している。古墳の分布範囲にほぼ分布する。ただし、針は細いため調査段階では腐食が進んで確認されない可能性もあるため断言できないが、各時期において日本列島内で一律に出土するわけではないことに注意が必要である。

前期 古墳時代前期には東北（森北1号墳）から北部九州（熊本山古墳、文献99）まで針が散在して出土している。3基以上が集中する地域は確認できず、三重県石山古墳では3基の埋葬施設のうち2基に多量に副葬されている。これ以外では京都府南丹市（旧園部町）園部垣内古墳、平山古墳（文献34）や島根県雲南市神原神社古墳（文献73）、松本1号墳などがやや近接する程度である。

古墳の墳形・規模は前期では前方後円（方）墳の割合が高く、また40mを超える規模の中・大規模の古墳

に副葬される傾向にある。

中期 中期古墳での確認例が最も多く、お花山10号墳から北部九州まで分布が確認できる。前期と同じく散在傾向にあるが、前期よりも地域的にまとまる傾向にある。また、40m以上の古墳に副葬される一方で、前期と比較すると20m以下の小規模古墳でも確認されるようになること、30m以下の中島 笹塚1号墳（文献6）や奴山5号墳（文献93）など10本以上副葬する古墳が確認できる。

中期に針が最も集中する地域は奈良県宇陀市の旧大宇陀町域を中心とする地域である。中期中葉～後期後葉の、北原古墳、北原西古墳、能峰前山1号墳（文献51）、後出6号墳（文献50）、ヲトンダ4号墳（高田垣内古墳群、文献52）、見田・大沢1号墳（文献41）で出土しており、こうした針が集中する地域は継続的に針を使用した生産活動を行っていたと想定してよいと考える。

このほか、山口県朝田墳墓群（文献83～85）、広島県才谷古墳群（文献79）、奈良県タニグチ古墳群（文献53）など2～3基が集中する地域がある。数多くの中期古墳が調査されていても針の出土数が少ない中で、やや集中する古墳群や地域が存在する点は興味深い。

後期～終末期 後期は針の出土例の確認は中期より減少するが中期までに針の副葬が見られなかった地域で確認できるようになる。針を前期から後期まで継続的に副葬する地域はなく、中期以降後期まで継続するのは奈良県宇陀地域以外には確認できない。宇陀地域はこの点からも針副葬に長期的に意義が見出され、自らの職掌を示すため副葬され続けたといえよう。

後期の特徴は20m以下の小規模古墳に副葬されることが多い点で、40mを超える古墳での副葬の割合が減少する。

一方、副葬古墳数は減少するものの集中する地域が確認でき、奈良県寺口忍海古墳群（文献44）・寺口千塚古墳群（文献43）と大和二塚古墳（文献42）の葛城地域、田頭山1号墳・須津J6号墳ほか東駿河地域、三ノ宮・下谷戸7号墳（文献9）・さんせ塚古墳（文献20）の神奈川県伊勢原市である。

前期・中期・後期（という大まかな時代設定では不適切であるが）ともに、散在傾向にありながら、特定地域や特定古墳群にやや集中する傾向がある。こうした集中する地域は針を使用した服飾（あるいは皮革）生産が専業的に継続して（宇陀地域）、あるいは地域的（中期の朝田墳墓群など、後期の葛城地域や東駿河地

域）に行われていた可能性を想定してよいと考える。

5 副葬状況の検討

(1) 出土状況から見た針（図3・4）

副葬状況の分類と傾向 古墳時代前期～後期の堅穴系埋葬施設の副葬状況からは、①単独で副葬、②農工具とともに副葬、③玉類・櫛など装身具とともに副葬、④鉄鎌や大刀などの武器近くに副葬が確認できる。

②が最も多い副葬方法であり、副葬状況の分類が難しいもの、未確認や出土状況不明のものを除く53例中20例である。棺内に農工具とともに副葬される②a、棺内に刀子と組み合わされて副葬される②b、棺外や副室に農工具とともに副葬される②cがある。①は18例で小規模古墳に多い副葬方法である。③は11例で、現状では西日本で確認される方法である。特に北部九州で針が出土した七夕池古墳（文献97）、神領2号墳（文献92）など6基は農工具や刀子が副葬されるにもかかわらず、頭部付近と推測される位置から玉類や櫛等の装身具類とともに副葬される配置③をとる。また、兵庫県朝来市の茶すり山古墳、梅田1号墳も農工具を副葬するが、やはり配置③を採用している。針の副葬にあたっては地域的な習慣（個性）が存在する可能性がある。④は3基で確認できる。後述するように『万葉集』にもあるように兵士のもちものとしていた可能性があるが断定することは難しい。

針と刀子の関係 針出土古墳の出土状況をみると、特に農工具のうち刀子と組み合わされて副葬された可能性を想定できる古墳があり、また、刀子と針（筒）を腰に下げて埋葬されたと想定できる古墳がある。これは縫物をした後の糸を切断するために刀子と針が組み合わせ関係にあったのであろう。

ただし、小規模古墳のみならず、水神山古墳や風吹山古墳のように70m級の古墳にも副葬されており、大型古墳の被葬者が直接針仕事をしたとは想定し難いが、針使用する場合には刀子とともに腰に下げて保持していた可能性が高いことが想定できる。

(2) 針と性別

針副葬古墳被葬者の性別 針が人骨とともに出土した古墳は少なく、三昧塚古墳、藤ノ木古墳と柿坪中山4号墳（文献63）が男性、カチヤ古墳（文献59）、七夕池古墳、田和古墳、朝田I地区2号周溝墓、月の輪古墳が女性である以外は、大部分は人骨の出土がなく不明である。しかし、これまでの研究で副葬品からある

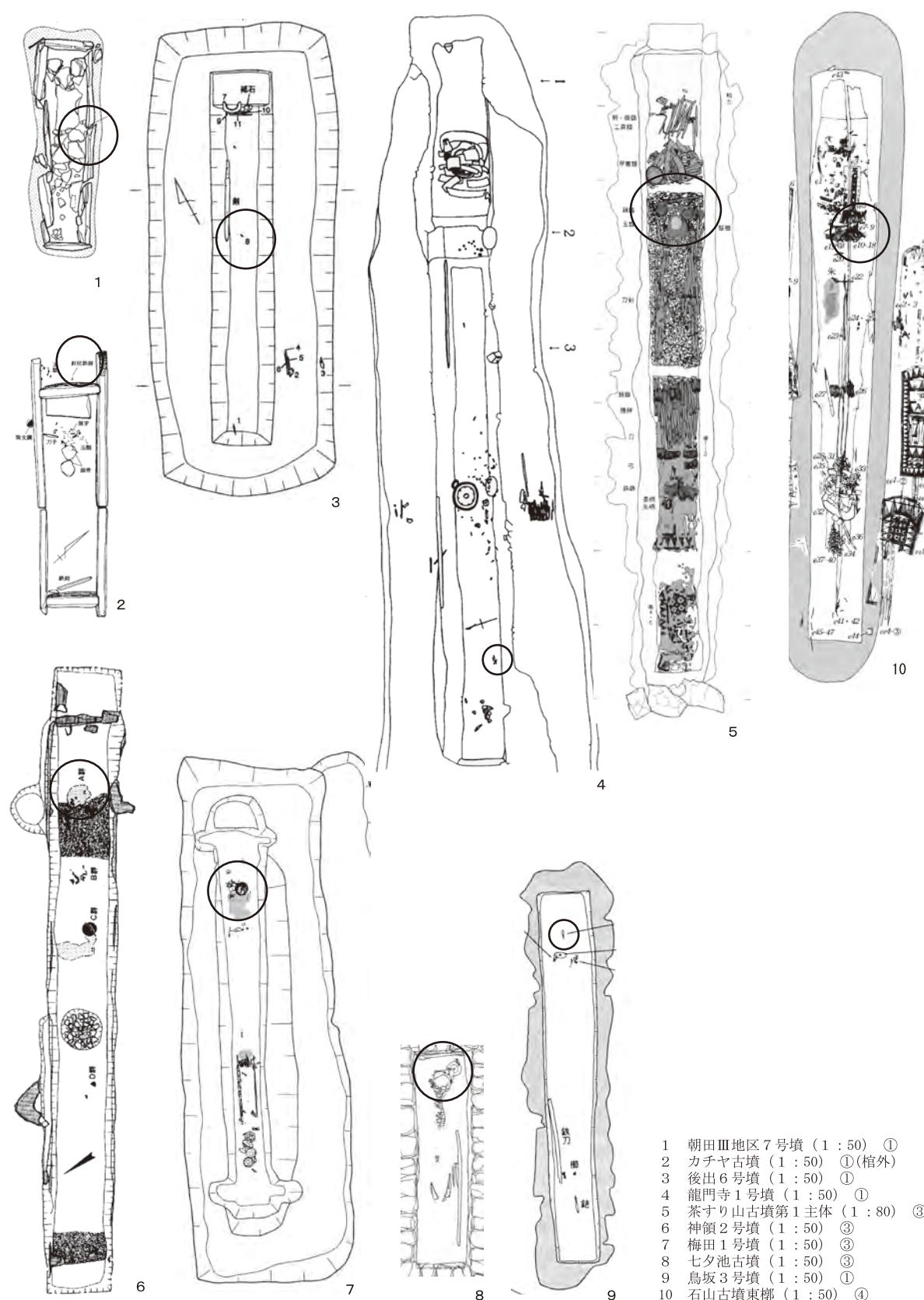


図3 針出土状況① (単独, 装身具・武器と共に)

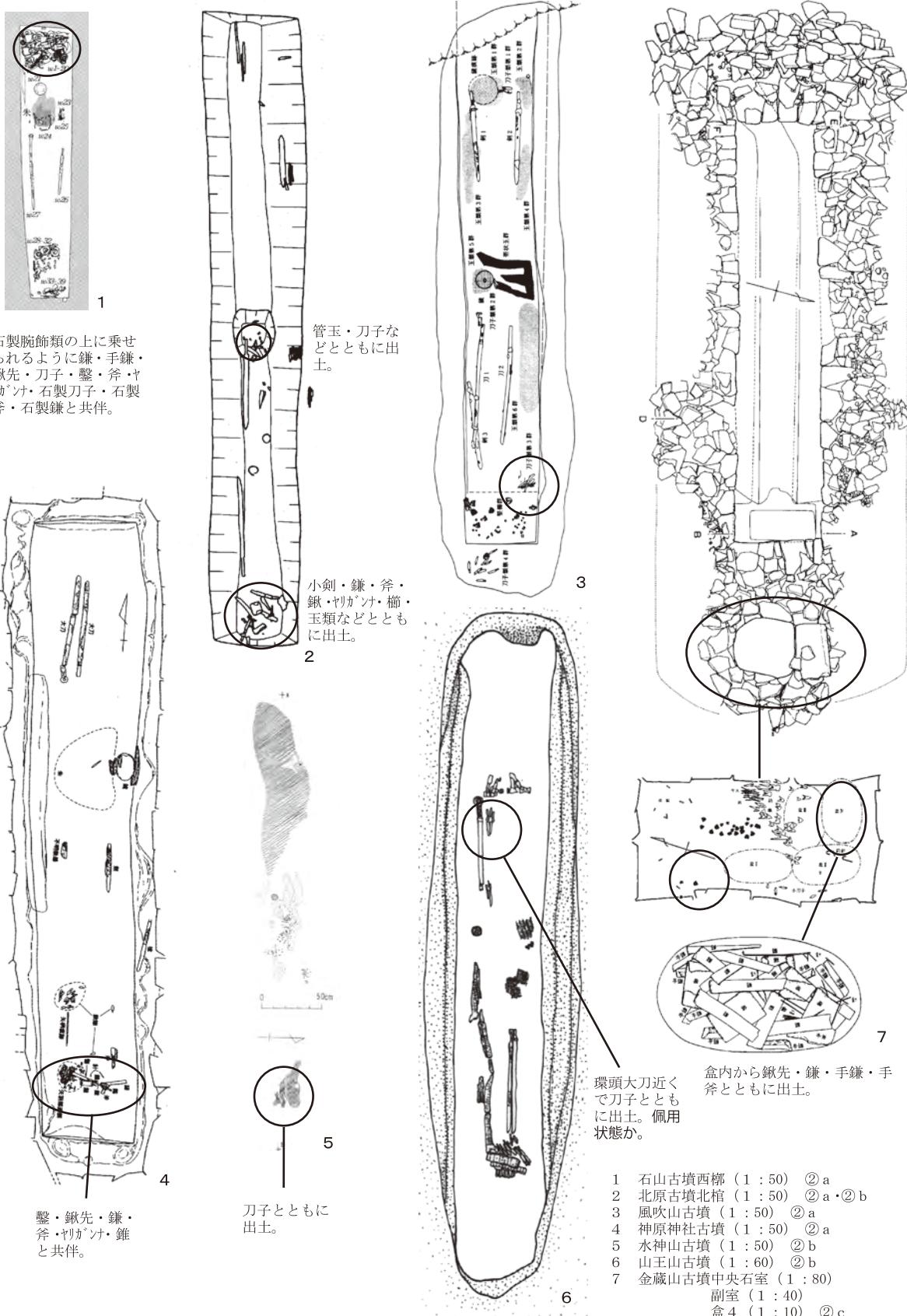


図4 鈎出土状況②（農工具と共に）

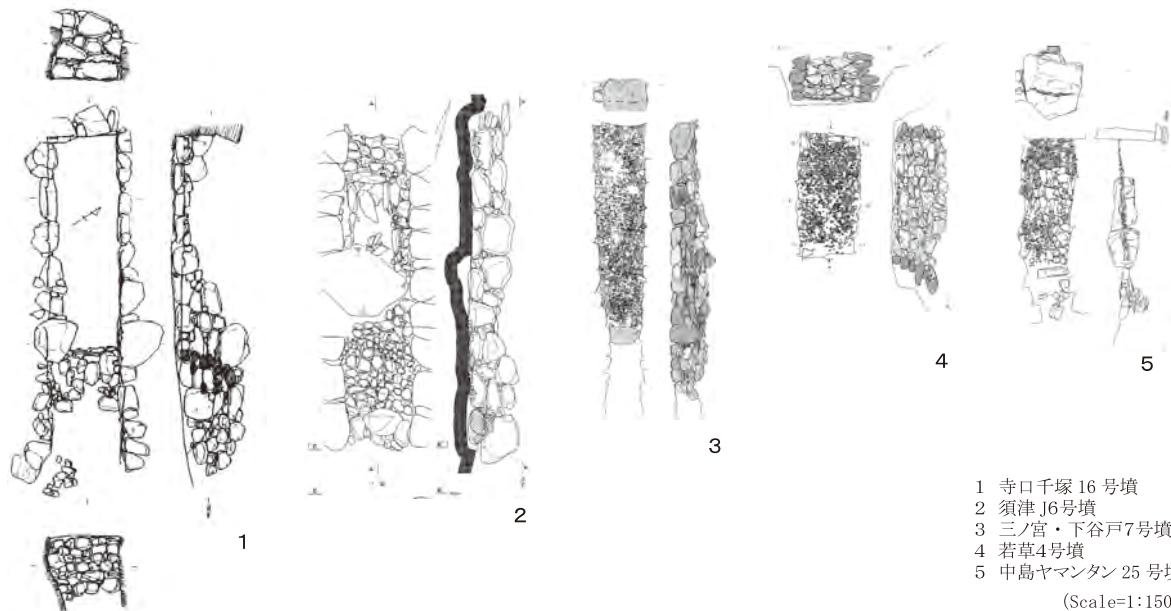


図5 古墳時代後期の針出土の無袖石室

程度性別が想定可能である。清家章氏の研究（清家1996）では、男性に伴い、女性に副葬される可能性が低い遺物として甲冑と鉄鎌が挙げられていることから、氏の研究を基準として集成表に甲冑と鉄鎌の共伴の有無を示し、それに基づいて甲冑・鉄鎌の両者あるいはどちらかが出土した古墳を男性（表では、「男？」と表記）、両者ともに出土しない古墳を女性（「女？」）と想定した。横穴系埋葬施設については複数の埋葬が想定されるため性別の想定は控えた。

この分析に基づけば、性別が特定・想定できる古墳98例中53例が男性、43例が女性、男女2例であり、女性にのみ伴う副葬品とは言えない。

『万葉集』にみる針保有者 『万葉集』には、防人として旅立つ橘樹郡の上丁物部真根が詠んだ歌に対する妻椋椅部弟女の反歌「草枕 旅の丸寝の 紐絶え巴 我が手と付けろ これの針もし」(4420)がある。また、大伴宿祢池主と下吏のやり取りの歌、「草枕旅の翁と思ほして針ぞ賜へる縫はむ物もが」(4128)、「針袋取り上げ前に置き返さへばおのともおのや裏も継ぎたり」(4129)、「針袋帶び續けながら里ごとに照らさひ歩けど人もとがめず」(4130)などからも男性が旅路に際し針を携帯し、針を使用していた可能性が高い。ただし、男性がこうした簡易の裁縫は行っていた可能性はあるものの、直接針仕事をして服飾等の生産を行っていたかどうか特定はできない。

針と性別 このように針が副葬された古墳被葬者と、文献から想定される針保有者を分析すると、針は必ず

しも女性のみが保有するものではなく、男性も保有・使用していたことが判明する。したがって、針が出土したとしても女性に直結させることはできない。

(3) 古墳時代後期の針と無袖石室

前稿（大谷2010b）でも述べたが、古墳時代後期の東駿河と寺口忍海古墳群などの葛城地域との石室形態（無袖形石室）や副葬遺物の類似性が想定できる（鈴木2010、大谷2010a）。また、古墳時代後期の針出土古墳がすべて無袖石室ではないが、各地域で針が出土した古墳の中に無袖形石室が確認できる。上記の2地域のほかに、三ノ宮・下谷戸7号墳と、若草4号墳、中島ヤマンタン25号墳がある（図5）。針副葬が少ない中で無袖形石室の中で石室形態が類似し、針を副葬することは職掌を共有するなどの共通点があった可能性を考慮しておく必要がある（大谷2010a）。

寺口忍海古墳群や東駿河地域の事例から想定すれば、総合的な手工業生産が導入されていた中の一つの技術を示す副葬遺物である可能性も想定しておきたい。

6 針副葬の意義と針副葬古墳の特徴

生産用具としての針 間壁葭子氏（註4）は、金蔵山古墳の盒内への農具とともに副葬されたことから、服飾生産が他の農耕と同様に行われていたと想定した（間壁2000）。筆者の分析でも、金蔵山古墳や石山古墳西槻の事例のように、農工具とともに副葬される事例が多いいため、針を使用した服飾（あるいは皮革製品）

生産は農工生産の一部門として行われていた、あるいはみなされていた可能性が高いことが確認できる。また、農工具とともに副葬される古墳の多くが、墳丘規模が大きく、副葬品も豊富な古墳が多いため、各地域の首長・小首長が行う生産の象徴として針も農工具とともに納められた可能性が高い。

針副葬古墳の特徴 針副葬古墳はすべての地域で確認できるわけではないことを重視し、また西山1号墳のように70mの前方後円墳でありながら埋葬施設内に針のみを副葬する古墳も確認できることなどを考慮すれば、針が多量に副葬された大型古墳については專業的な服飾（あるいは皮革製品）生産を管掌するような立場、中小規模古墳については実際に生産を担った集団の長などと想定してもよいと考える。また、針を1～3本の少數副葬する古墳についても同様の性格をもっていたと推定しておきたい。

さらに、少ないながらも特定地域にやや集中する傾向が確認できることから、針を使った專業的な生産活動が地域的に限られていた可能性も想定しておくべきかもしれない。

なお、古墳時代後期には、農工具が副葬される古墳の減少に伴って針と農工具との関連性が低くなったり可能性があり、あくまでも想定にすぎないが、古墳時代後期段階（特に後期後半以降）に農工生産から独立して針を使った服飾（皮革）生産が行われる（みなされる）ようになったとも考えられる。

裁縫技術との関係 正倉院御物（南倉）の針は、「七孔針」と称され、乞巧奠（七夕）の際に裁縫技術の向上を願う儀式に使用されたと考えられている。この儀礼が古墳時代まで遡るかどうか明確ではないが、銅製針が古墳時代後期に存在することから、針副葬の意義は、裁縫・服飾生産に関わる技能保持集団の技能向上や多産を目的として副葬されていた可能性が高い。

したがって、針副葬が表徴する被葬者像は、針を用いた手工業（服飾あるいは皮革製品）生産に携わった、あるいは管掌した集団が自らの職掌を示すとともに、技能の向上や生産品の多産が願われていた可能性が高い。

7 結語

小論では、金属製針出土古墳の集成を示したうえで、針の形態分類、針の保有方法、針の副葬方法などの分析を行った。形態分類をもとにした時期的な針の特徴から針が古墳時代前期末から中期初頭に機能分化が進

んでいたことを明らかにした。また、針出土古墳の分布から全国一律に出土するわけではなく、散在するとともに特定地域に複数が集中する場所があることを確認し、集中する地域は專業的な針を使った生産が行われていた可能性を想定した。被葬者の性別からは、これまで想定されていたような女性に限定されるものではないことも確認した。針の副葬状況からは農工生産との関連が深いことを想定するとともに、針を副葬する被葬者が針を使った生産を管掌・直接指揮していた可能性を想定した。また、こうした針を使った（専門的な）生産が地域的に限定されていたと想定した。一方で、北部九州には頭部付近で装身具とともに副葬する事例があることから針副葬にあたって地域的な風習が存在していた可能性も想定した。

ここに挙げた成果は、現状での大まかな分析や想定が多く、集落出土の事例などと関連した分析が行えなかったことから、今後さらなる検討を進めていきたい。

最後に小論をまとめるにあたり、多くの資料（報告書）を快く紹介・貸与いただいた鈴木一有氏に深謝します。また、資料閲覧・報告書の集成にあたり、次の方々・機関にお世話になりました。銘記して深謝します。

北山峰生 滝沢 誠 中島哲夫 藤村 翔
和田達也 渡瀬 治 長岡京市埋蔵文化財センター

註

- 以下、文献〇（番号）とした場合は、表1に示した各古墳の参考文献番号による。なお、文献については各古墳の初出箇所で記載し、各古墳の2回目以降については文献名は省略する。
- 筆者は報告（大谷2010b）にあたり、針の集成が行われていないとしたが、東京大学考古学研究室（文献20）や楠元哲夫氏ら（楠元1986）が集成表、分布図を提示されていることを知った。また、福岡県内の報告書（平ノ内1984ほか）では針出土古墳の福岡での出土例が掲載されていることを知った。浅学のため御容赦願いたい。
- 当集成において針が出土したとされる古墳のいくつかについては、針が出土していないことが判明したため、除外している。
- このほか間壁氏は、鍼灸との関係も想定されている（間壁2000）。針孔が確認されていない細いものの中に鍼灸の針が存在する可能性は否定できないが、おおよそ1～2の直径があるものが多く、現代人の感覚からすると、古墳出土の針を鍼灸用の針として俄かには想定しにくい。

参考文献

- 入江文敏 1998 「佩砥考」『網干善教先生古希記念考古学論集』 関西大学考古学研究室
- 大谷宏治 2010a 「副葬遺物からみた無袖石室の位相」『東日本の無袖石室』 雄山閣
- 大谷宏治 2010b 「須津J-第6号墳出土の鉄針について」『富士山・愛鷹山麓の古墳群』 静岡県埋蔵文化財調査研究所
- 楠元哲夫編 1986 「付編出土遺物地名表」『宇陀北原古墳』 奈良県大宇陀町
- 鈴木一有 2002 「鋤崎古墳の鉄製品が提起する諸問題」『鋤崎古墳』 福岡市教育委員会
- 鈴木一有 2010 「駿河東部における無袖石室の史的意義」『東日本の無袖石室』 雄山閣
- 清家 章 1996 「副葬品と被葬者の性別」『雪野山古墳の研究』 考察編 大阪大学考古学研究室
- 菱田淳子 2002 「1号墳」『梅田古墳群I』 兵庫県教育委員会
- 平ノ内幸治 1984 「針について」『神領古墳群』 宇美町教育委員会
- 間壁葭子 2000 「金藏山古墳出土の針」『古代学研究』150号
- 渡辺貞之 1979 「針」『世界考古学辞典』

第1表参考文献 ※図1・3~5の出典も下記による。

- 1) 山形県1985『お花山古墳群』 2) 創価大学・会津坂下町教委1999『森北古墳群』 3) 茨城県1974『茨城県史料』考古資料編3古墳時代 4) 斎藤忠・大塚初重他1960『三昧塚古墳』 5) 岩井市教委1975『上出島古墳群』 6) 栃木県埋文事業団2008『中島地区遺跡群9 中島笠塚古墳群・中島篠塚遺跡』 7) 福岡県教委1979『九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告』XXX 8) 市原市教委1980『上総山王山古墳』 9) かながわ考古学財団2000『三ノ宮・下谷戸遺跡II』 10) 寺井町教委1997『加賀能美古墳群』 11) 能美市教委2011『史跡秋常山古墳群』 12) 石川県埋文センター2002『中島ヤマンタン25号墳』 13) 福井市1990『福井市史』資料編1 14) 静岡埋文研2004『田頭山古墳群』 15) 静岡埋文研2010『富士山・愛鷹山麓の古墳群』 16) 前田勝巳2007『中原第4号墳』『東国に伝う横穴式石室』 17) 藤枝市教育委員会1968『東名高速道路概報』・藤枝市史編さん委2007『藤枝市史』資料編1 18) 掛川市教委1970『高代山古墳群』 19) 静岡大学考古学研2011『春林院古墳の研究』 20) 東京大学1969『我孫子古墳群』 21) 赤塚次郎ほか2005『史跡東之宮古墳調査報告書』 22) 船来山古墳群調査団1999『船来山古墳群』 23) 大垣市教委2003『史跡昼飯大塚古墳』 24) 楠崎彰一1962『岐阜市文化財調査報告書』 1~25) 京都大学博1993『紫金山古墳と石山古墳』 26) 大阪大学考古学研1996『雪野山古墳の研究』 27) 滋賀県埋文センター2005『滋賀埋文ニュース』307 28) 城陽市教委1986『芝ヶ原10号・11号墳発掘調査概報』『城陽市埋蔵文化財調査報告書』15~29) 同志社大学考古学研究会1962『久津川古墳群の研究』『同志社考古』2~30) 向日市埋文センター2001『寺戸大塚古墳の研究』 31) 大阪大学考古研2005『井ノ内稻荷塚古墳の研究』 32) 京都府埋文センター1993『京都府遺跡調査概報』55~33) 同志社大学文化学科1990『園部塙内古墳』 34) 京都府埋文センター2001『京都府遺跡調査概報』97~35) 長岡京市教委1993『長岡京市埋蔵文化財センター年報』昭和63年度・長岡京市埋文センターよ

り教示 36) 京都府埋文センター1997『瓦谷古墳群』 37) 京都府埋文センター1991『京都府遺跡調査報告書』15~38) 奈良市教委『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書』平成2年度 39) 奈良県教委1961『桜井茶臼山古墳』 40) 桜井市教委『双築古墳発掘調査現地説明会資料』 41) 檀考研1982『見田・大沢古墳群』 42) 奈良県教委1962『大和二塚古墳』 43) 檀考研1991『寺口千塚古墳群』 44) 檀考研1988『寺口忍海古墳群』 45) 檀考研1993『藤ノ木古墳第2・3発掘調査報告書』 46) 檀考研2003『大谷今池2号墳』 47) 檀考研1979『新庄火野谷山古墳群』 48) 檀考研1986『宇陀北原古墳』奈良県大宇陀町 49) 楠元哲夫・朴美子ほか「北原西古墳の発掘調査」『大和宇陀地域における古墳の研究』 50) 檀考研2003『後出古墳群』 51) 檀考研1987『能峰遺跡群II』 52) 檀考研1991『高田垣内古墳群』 53) 檀考研1996『タニグチ古墳群』 54) 高槻市教委1967『弁天山古墳群の調査』 55) 高槻市1973『高槻市史』考古編 56) 岸和田市教委1995『久米田古墳群発掘調査概要II』 57) 八尾市教委2005『史跡心合寺山古墳整備事業報告書』 58) 兵庫県教委2010『史跡茶すり山古墳』 59) 兵庫県教委1983『半坂峠古墳群・辻遺跡』 60) 但馬考古学研1985『中ノ郷・深谷古墳群』 61) 兵庫県教委2002『梅田古墳群I』 62) 清家章1996「副葬品と被葬者の性別」『雪野山古墳の研究』考察編 63) 山東町教委1978『柿坪中山古墳群』 64) 竜野市教委1984『鳥坂古墳群』 65) 御坊市教委1980『岩内古墳群発掘調査概報』 66) 印南町教委1978『崎山14号墳発掘調査報告書』 67) 鳥取県教育文化財団1996『宮内第1遺跡 宮内第4遺跡 宮内第5遺跡 宮内2・63~65号墳』 68) 山本清1971『山陰古墳文化の研究』 69) 佐々木古代文化研1961~62『ひすい』85~97 70) 米子市教委・日下古墳群調査団1992『日下古墳群』 71) 池田満雄1954『出雲上島古墳調査報告』『古代学研究』10~72) 島根県教委1963『松本古墳調査報告』 73) 賀茂町教委2002『神原神社古墳』 74) 山陽國地埋蔵文化財発掘調査団1973『四辻土壙墓遺跡・四辻古墳群』 75) 七つ塙古墳群発掘調査団1987『七つ塙古墳群』 76) 倉敷考古館1959『金藏山古墳』・間壁葭子150「金藏山古墳出土の針」『古代学研究』150~77) 月の輪古墳刊行会1960『月の輪古墳』 78) 岡山県古代吉備文化センター1997『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』121~79) 広島県教委1976『県営駅字住宅団地造成地内埋蔵文化財発掘調査報告』 80) 府中市教委1983『府中・山ノ神1号古墳発掘調査報告』 81) 広島県教委1977『高陽新住宅市街地開発事業地内埋蔵文化財発掘調査報告』 82) 弘津史文1928『周防国赤妻古墳並茶臼山古墳(其1)』『考古学雑誌』18~4 83) 山口県教委1976『朝田墳墓群1』 84) 山口県教委1977『朝田墳墓群II・鴻ノ峰1号墳』 85) 山口県教委1983『朝田墳墓群VI』 86) 田布施町教委1988『国森古墳』 87) 愛媛県1986『愛媛県史』資料編・考古 88) 松山市教委2003『葉佐池古墳』 89) 愛媛県埋文センター1996『若草町遺跡II』 90) 福岡市教委1989『老司古墳』 91) 福岡市教委2002『鋤崎古墳』 92) 宇美町教委1984『神領古墳群』 93) 津屋崎町教委1978『奴山5号墳』 94) 太宰府町教委1976『菖蒲浦古墳群』 95) 福岡県教委1986『九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告』6~96) 志免町教委1984『萱葉古墳群』 97) 志免町教委2001『七夕池古墳』 98) 甘木市教委1982『古寺墳墓群』 99) 木下之治・小田富士雄1967『熊本山舟型石棺墓』『帶隈山神籠石とその周辺』 100) 国富町教委1986『国富町文化財調査資料』4~101) 犀川町教委1997『古川平原古墳群』 102) 第28回九州・山口古墳時代研究会実行委員会2002『山口の古墳』 103) 加悦町史編纂委2007『加悦町史』資料編第一巻 ※) 奈良文化財研究所遺跡データベース(奈文研ホームページ公開データベース-遺跡データベース) ※略号 教委=教育委員会 埋文=埋蔵文化財 研=研究所・研究室 博=博物館 静岡埋文研=静岡県埋蔵文化財調査研究所 檀考研=檀原考古学研究所